

2020年7月14日

2020年7月 東京23区 +0.4%の3,860円/㎡ 各築年帯では築年数が浅いほどトレンドの堅調さが目立つ

三大都市圏・主要都市別/分譲マンション賃料月別推移

首都圏6月 前月比+1.5%の3,108円/㎡ 全域での強含み&東京都のシェア拡大でプラスに 近畿圏は主要エリアの上昇で最高値を更新 中部圏では引き続き上昇

2020年6月の首都圏・分譲マンション賃料は、全域での強含みに加えて賃料水準が高い東京都の事例シェアが拡大したことで、前月比+1.5%の3,108円/㎡と5ヵ月連続で上昇した。都県別で見ると、東京都では+0.9%の3,680円/㎡と3ヵ月ぶりのプラスを示し、再び上昇した神奈川県（+0.3%、2,138円/㎡）や埼玉県（+1.2%、1,748円/㎡）でも前々月以上の水準まで押し上がっている。一方、千葉県でも+0.2%の1,606円/㎡と僅かながら上昇に転じたものの、前々月の水準までには至らなかった。

近畿圏では主要エリアが総じて強含んだ影響から、前月比+1.0%の1,981円/㎡と再び上昇して年初来の最高値を更新した。大阪府では平均築年数がやや若返ったことで、+1.0%の2,218円/㎡と上昇して前々月と大差ない水準に戻している。また、兵庫県でも築浅事例の増加に起因して+1.0%の1,701円/㎡と続伸し、1,700円台に達した。

中部圏では前月比+1.0%の1,767円/㎡、愛知県では+0.9%の1,811円/㎡と、引き続き上昇した。前年同月比は依然としてマイナスを示しているが、正味トレンド自体が堅調である状況に変化はない。